

佐賀県高等学校

P T A 新聞

発行 佐賀県高等学校PTA連合会
 佐賀市南佐賀3-11-15
 (佐賀県立佐賀高等学校内)
 電話 0952(29)2573
 F A X 0952(26)5435
 印刷 大同印刷株式会社

単P活動の活性化に期待

会長 西岡 豊



明けましておめでとうござい

ます。希望に満ちた新年をお迎

えのこととお慶び申し上げます。昨年を振り返りますと、時代が平成から令和へと変わり、東京オリンピックに関わる話題が多かった年でした。海外ではパリのノートルダム大聖堂、国内では沖縄県の首里城の大火災と、

大きな世界遺産が焼失した年でもありました。また、台風の影響等で全国各地に大きな被害が発生した年でもありました。

本県でも8月末の豪雨で多大な被害を受けました。佐高P連事務局も床上浸水し、その影響で電話、ファックス、インターネットが1週間程度使用できなくなるなどの被害が発生し、移転せざるを得ない状況になりました。佐賀県教育委員会の配慮もあって、昨年の12月からは、佐賀県立佐賀東高等学校内に新しい事務所を設置し、現在は通常どおり業務ができるようになっていきます。

こうした災害の話題が多い中、日本で開催されたラグビーワ

ルドカップでは日本代表が初のベスト8入りを果たし明るい話題を提供してくれました。また、スローガンである「ONE TEAM(ワンチーム)」が昨年の流行語大賞を受賞するなど盛り上がりを見せました。

さて、今年は東京で2回目のオリンピック・パラリンピックが開催される年です。3月26日には聖火が福島県をスタートします。日本国内がオリンピック・パラリンピックに関する話題につつまれる一年になるのではないかと考えています。

高P連関係では、今年6月に九州大会が宮崎県で、8月には全国大会が島根県で開催されます。このような大会では、各県で取り組まれている様々な活動の報告や、貴重な講演や講話を聴くことができます。大会に参加された方がそこで得られた貴重な情報や体験を一人でも多くの会員の皆さまに還元していただき、是非とも良いところを取り入れてほしいと思います。それが各学校の単P活動の活性化につながっていくと思われ、ひいては子どもたちの成長にもつながるものと確信いたします。

最後に、会員の皆さまのご健勝とご多幸を祈念いたしまして年頭の挨拶といたします。

三神地区

当番校 鳥栖商業高校

令和元年度三神地区高等学校PTA指導者研修会が、11月8日(金)、鳥栖市のホテル「ピアントス」にて開催されました。

参加者は三神地区の7校の保護者・関係職員約40名でした。今年度は、九州地区高等学校PTA連合会第2回4委員会(宮崎県)の開催と重なり、県の事務局から来賓をお迎えすることができました。

【開会行事】

三神地区連絡協議会の日吉会

佐城地区

当番校 佐賀西高校

10月23日(水)、令和元年度佐城地区高等学校PTA研修会が「グラウンデはがくれ」にて開催されました。来賓には学校教育課より吉岡浩一係長、佐賀県高P連より、西岡豊会長、久保隆



長より挨拶があり、事務局校の山口校長より挨拶がありました。

【講演】

講師に西九州大学子ども学部の学長の高尾兼利先生を迎え、「高校生の心理を理解する」私の青春時代を振り返りながら」という演題で、ご講演をいただきました。講演の途中には、グループディスカッションの時間があり、参加者自身が青年期(高校時代)に考えていた、「こんなものがほしい」「こんな人になりたい」「こんなことが心配」などをテーマにグループごとに話し合い、発表が行われました。

参加者も高校生の頃に考えていたことを振り返り、現在の自分の考えと比較することで、高校生の心理を理解するきっかけになったのではないのでしょうか。今年度の講演は講師の先生が一方的に話をされるだけでなく、グループディスカッションを交えられていたため、参加者同士の交流も深めることができたのではないかと思います。

慶事務局長をお迎えし、佐城地区各学校の保護者・関係職員約130名が出席されました。開会行事では、佐城地区事務局の佐賀西高校後援会の森会長の挨拶のあと、来賓の西岡会長よりご挨拶をいただきました。その後、心理カウンセラーとして福岡を中心にご活躍されている米倉けいこ先生をお迎えし、「子どもに無条件の愛を感じ、適切に叱るための子育て実践法」子どもたち生まれてきてくれてありがとう」と題し、ご講演いただきました。

講演では、感情処理法というカウンセリングの処方についてご説明いただき、この講演会終了後、すぐに実行してもらいたいこととして、「子どもの気持ちに寄り添い、子どもの存在そのものを無条件で受け入れる」

【高P連全国・九州大会報告】

全高P連京都大会については鳥栖高校PTAより、九高P連福岡大会については鳥栖商業高校より、それぞれ報告がありました。

【事例発表】

鳥栖商業高校から、一年間のPTA活動について、生徒指導委員会、広報委員会、企画研修委員会と多岐にわたる報告がありました。



県下一斉合同列車指導

11月14日(木)、佐賀県高等学校生徒指導連盟との合同列車指導(下校時)が行われ、佐賀駅構内で行われた出発式では、西岡豊会長が挨拶で参加者を激励されました。

これは、高校生の駅構内及び列車内でのマナーを向上させるため、県内高校職員、各高校保護者、JR職員、佐賀県警察及び少年補導員が一緒になって、毎年この時期に実施しているものです。



お知らせ

来年度の佐高P連「会費」及び全国高P連賠償責任補償制度の「掛金」は今年度と同じです。

○佐高P連事務担当者会議

4月23日(木) 14時

「グラウンデはがくれ」

○佐高P連定期総会

6月11日(木) 14時

「グラウンデはがくれ」

○九高P連大会「宮崎大会」

6月18日(木)・19日(金)

「シーガイアコンベンションセンター」

○全国高P連大会「島根大会」

8月19日(水)・21日(金)

「くにびきメッセ」ほか

春 秋



耐恒寮の少年たち

唐津東高校は、1899年佐賀県立第三中学校として創立以来、120年目を迎えています。2016年発行の「週刊エコノミスト」に本校が掲載されました。その中で述べられていることは、学校創立は唐津藩が設立した英学校「耐恒寮」が建てられた時である1870年とする考え方もあるようです。

学校は一年半しかなかったようですが、各界で活躍する、例えば、大蔵大臣、総理大臣であった高橋是清、東京駅、武雄温泉の楼門を設計した辰野金吾、早稲田大学総長の天野為之などを輩出しています。

その「耐恒寮」について、宮島醤油社長宮島清一氏が「耐恒寮の少年たち」としてまとめられた小冊子が、2010年に発行、また、2019年発行の「時代を拓いた唐津の先人」の中にも記載がありますので、一部抜粋します。

「耐恒寮」には、50人ほどの生徒が集まった。高橋は英語で英語を教えた。生徒にも教室では日本語を使うことを許さず、英語だけを使って生徒とやり取りをした。しかし、当時の唐津には、外国人はいなかったから、生徒たちは、高橋の教える英語が本場に役に立つかどうか不安だ。そこで唐津港に外国船が石炭を積みに来た機会に、船員たちと会話をしに出掛ける。「耐恒寮」で学んだ英語が外国人に通じることを知って、彼らは、おおいに喜び、高橋への信頼も確かなものとなる。

時代に先駆けて、このような英語教育がなされていたことは大変な驚きです。本校の起源を大変誇りに思います。

唐津東中学校・高等学校

校長 渡辺 孝一

質実剛健・鍛身養志
たくましさを有する、
高い志を持ち品位と
佐賀県立佐賀西高等学校

本校は、藩校弘道館の流れを継承し、明治9年に佐賀変則中学校として開校し、本年創立144年を迎える歴史と伝統を誇る高等学校です。校是である「質実剛健・鍛身養志」のもと、高い志を持ち品位とたくましさ

を有する西高生の育成を目指しています。



唐津南高校の中でも特に輝いている団体があります。それが「唐津南虹ノ松原松露プロジェクトチーム」です。歴史は16年を誇り、地元唐津の伝統文化遺産「虹ノ松原」を後世に繋げるため、様々な形で保全活動を推進して行ってきました。虹ノ松原地域一斉清掃活動(通称「KPP」)の運営はもちろん、各種イベントやフォーラムでのPR活動など幅広く取り組みを行っています。現在は虹ノ松原内の有効資源である松葉や松ぼっくりを活用した商品開発と、開発した商品で得た収益を虹ノ松原へ還元する循環型プランの構築を研究の柱にしています。



県内屈指の進学校として大学進学実績をあげるのももちろんのこと、部活動では空手部、テニス部がインターハイ出場、文

化部ではサイエンス部が理科研究発表大会全国大会出場と各部活動が九州・全国を舞台に活躍をみせています。

地元の宝を守り伝える

現在は地元唐津の伝統銘菓であった「松のみどり」というかりんとうの復活や松葉を用いた和紙の開発、松葉の健康・栄養成分に注目した松葉パウダーの研究など活動は活発です。



今年度佐賀で開催された全国高等学校総合文化祭郷土研究部門において、虹の松原の新しい保全の形である循環型サイクル



リニアアップ活動」としてボランティア活動を行っています。今年も生徒たちは暑い中、クリーク清掃、県立美術館・博物館のプラントの植え替え、ごみ拾い、除草作業を行いました。

また、本校の一大イベントである西高祭(前夜祭・文化祭・体育祭)では、生徒が中心となって企画・運営を行い、毎年素晴らしい西高祭を創りあげています。

佐賀県立唐津南高等学校



一生懸命に生徒達が積極的に活動を展開しており、未来に美しい虹の松原を引き継ぐため、高校生が自ら課題を見つけ、高校生らしい発想で様々な活動に取り組み姿はキラキラ輝いています。

鹿藤地区

当番校 鹿島高校

令和元年度鹿藤地区高等学校PTA指導者研修会を、10月5日(土)に、鹿島市の「清川」にて開催しました。今年度は、鹿藤地区加盟の各学校から約50名の参加がありました。

【開会行事】鹿藤地区事務局の鹿島高等学校PTAの岡正樹会長より挨拶をいただきました。【各学校PTA活動報告】校内環境整備活動・校内マラソン大会でのラーメンサービス、PTA交流会・ボランティア養成講座、文化祭でのカレーライスの販売・環境美化ボランティアへの参加及び協力、PTA通信の発行・PTAソーラン踊り隊の実施、全校一斉ボランティア活動・PTA豚汁会など、保護者・生徒・職員が一体となった各校特色のある取り組みをされているという報告がありました。

【高P連全国・九州大会報告】全高P連の京都大会については、鹿島高校PTAより、九高P連の福岡大会については、塩田工業高校(新)嬉野高校塩田校舎PTAより、それぞれ報告がありました。

唐松地区

当番校 唐津工業高校

唐松地区高等学校PTA指導者研修会が11月12日(火)に唐津市文化体育館文化ホールにて久保事務局長をお迎えし約50名の参加を得て開催されました。

【福岡大会】は唐津工業高校から第2分科会、杵築高校の学食についての報告がありました。全県一区ゆえ食事情は深刻でPTA活動の一環として「はなまる食堂」が設立された経緯などが報告されました。

杵西地区

当番校 武雄高校

10月11日(金)、杵西地区連絡協議会指導者研修会及び常任委員会が武雄高校内「武陵会館」にて開催され、10校から12単P計58名の参加者が出席されました。

杵西地区PTAの豊村貴司会長の挨拶、事務局牟田久俊校長の挨拶、佐賀県地域交流部さが創世推進課自発の地域づくり担当・高尾道子様に「まちづくり(地域づくり)いろはのいゝまちづくり(地域づくり)のため一人一人ができること」という演題で、講演をしていただきました。

少子高齢化に向かう日本のまちづくりの大切さについての講演で、「まちづくり」像をどう考える者が、仲間作りをして目指す「まちづくり」像をどうとん話し合い、目指す像を共有し、目的を明確化していくことで、一人一人の役割を自覚して行動できるように。これからの子どもたちは、親や先生の知らない世界に飛び込んでいくことになるが、周りの大人達が



り、両大会ともに共感、感銘できる大会でしたという報告がありました。

【講演】「笑って元気!!生きる力を考えてみよう。」という演題で、おおいた観光大使として活躍の矢野大和氏にご講演をいただきました。「生涯学習とは」「言葉の力とは」「子どもとの関わり方」についてなど、笑いの中にも的確に私たち参加者の心裡をつきながら、納得のいくお話をしていたいただき、参加者一同、矢野先生の巧みで機知に富んだお話に時間も忘れるほど聞き入っております。今後のPTA活動の活性化につながる大変有意義な講演となりました。

【唐津青翔高校活動紹介】総会の出席率を上げるための工夫として公開授業や系列ごとの展示販売を実施したり、朝の挨拶運動や学校行事ロードレース大会での豚汁提供、就職希望者への面接指導を行ったりなど多彩な活動をされています。

【講演】講師に特定非営利活動法人Tサポートさが事務局長 浴本

信子氏をお迎えし「トラブルから守るのも、対処するのも保護者の責任」を使わせないより、安全な使い方を」という演題で私たちが取り巻くネットの現状を知り、ネットの特性「バレル・広がる(消せない)・伝わらない」をキーワードに、インターネットでのやり取りは「様々な人が見ている、匿名はバレル」「情報は瞬時に広がり消せない」「姿の見えないネットのやり取りは誤解を生む」など、楽しさの裏に潜む危険を知ることが大事ですと問題提起され、またスマホやタブレット・ゲーム機の使い方、ルールについては是非ご家庭



寄り添うことで目標・目的を明確化し、その達成に近づけることができる」と話される講師の高尾先生は饒舌で、テンポがあり軽快なおしゃべりで、受講者はその話に聞き入っている様子でした。

その後、事例発表として伊万里特別支援学校のPTA活動について、山北麻子会長が「障害のある子どもたちが地域の中で共に生きるために」という演題で発表されました。コーディネートターの講話や車椅子の体験などを通して、相手のことを知ること触れ合うことで子どもの特性や特徴を理解する大切さを学ぶことが出来ること話されました。続いて、佐賀農業高校のPTA活動について、古川裕之会長が「子どもたちとつながるPTA活動」という演題で、参加率8割近くのPTA総会、体育祭や農業文化祭でのバザー、学校訪問や企業視察、あいさつ運動、広報誌の発行などの活動発表がありました。

で話し合い、インターネットを安全に楽しく活用できることを願っていますと話されました。ネット社会の問題は益々深刻化していく中で、いずれも身近な問題だっただけに参加者全員が危機感を共有したことは大変有意義な研修会になったと思います。

